

# 平成30年度地域包括支援センター 事業評価の結果の概要

松戸市高齢者支援課

2019/7/25

# 30年度地域包括支援センター事業評価の実施方針①

## (1) 自己評価・行政評価の実施方針

①自己評価 「評価の根拠」を記載するとともに、「評価の根拠」欄の記載に沿って、評価項目ごとに4段階（※）の自己評価を行う。

### ②行政評価

#### ◎基本的考え方

- 評価項目ごとにセンターが記載した評価の根拠をベースにして、松戸市地域包括支援センターとして求められている事業が実施できているかどうかを評価するとともに（絶対評価）、センター間の相互比較の観点も含めて（相対評価）、行政評価（4段階（※））を行う。
- 行政評価は、第1段階として、書類審査を実施し、その後ヒアリング審査を実施。その結果を踏まえ、再度、マップ等の成果物の内容を加味し行政評価を行った。また、特記事項は、発展的な取り組み等1事例につき、0.01点を加点し行政評価を行った。  
その評価結果を、介護保険運営協議会において審議した上で、行政評価を最終的に確定する（小数点第二位）。

#### ◎書類審査の実施方針

- 自己評価において記載された「評価の根拠」に基づき、書類審査を行う。評価に当たっては、原則として、必須項目である「評価の根拠」の記載内容に沿って評価を行い、必要に応じて、任意項目の記載を加味する。
- 客観性のある行政評価を実現するため、以下のような視点に基づき、具体的には、「平成30年度地域包括支援センター事業評価 行政評価の個別基準」をベースに、書類審査を実施し、ヒアリング後に最終審査を行う。

##### 【書類審査の視点】

- ・取組や記述の有無
- ・取組や記述の具体性
- ・取組件数等（高齢者人口比）の比較 等

#### ◎ヒアリング審査の実施方針

書類審査を補完し、行政評価の参考とするため、自己評価において記載された事項の正しさの検証や、好事例・課題の内容把握等の観点から、以下の事項等について、ヒアリング審査を行う。

##### 【ヒアリング審査内容】

- ・好事例の詳細
- ・個人情報保護マニュアルの収集
- ・地域ネットワークのマップ・リストの収集
- ・地域サポート医事業の確認
- ・地域ケア会議のテーマと出席者の関係、3層構造を意識しているか確認
- ・事業評価を通じた感想（良かった点、自己評価で苦労した点等） 等
- ・主な課題の詳細
- ・職場内研修の内容
- ・社会資源マップ・リストの収集
- ・事業計画の確認
- ・苦情対応体制の確認

※【4段階評価の定義】 4：大変よくできている 3：ある程度できている 2：あまりできていない 1：まったくできていない 1

## 30年度地域包括支援センター事業評価の実施方針②

### (2) 公表の実施方針

- 好事例の普及や市民の理解促進の観点から、運営協議会の事業評価関連の資料一式を、松戸市ホームページを通じて公表する。
- 公表に当たっては、資料一式にアクセスしやすくするなど、市民に分かりやすくなるような工夫を行う。あわせて、センターと相談しつつ、個別事例における匿名性の確保など、個人情報保護に十分留意しつつ、公表を行う。

### (3) 今後の課題と業務改善等の実施方針

- 平成29年4月から新たに4地区、地域包括支援センターが増設されたことにより、地域包括ケアシステムの深化推進を図れる体制を整えた。今後、地域に根付いた活動を展開していくために、今回の評価を踏まえ、課題の改善や強みの更なる強化を図り、地域包括支援センターの充実を図っていく。
- 平成29年4月から市直営の基幹型地域包括支援センターを設置し、各センターの総合調整機能や後方支援機能の強化を図っているが、今回の評価結果を踏まえて各センターの特色を生かした支援を展開していく。
- 新設した特記事項における特筆すべき事項や発展的な取り組みなど、好事例を横展開することで優れたノウハウ等を共有、蓄積していく。

# 30年度地域包括支援センター事業評価の変更点

## 平成30年度からの事業評価基準の変更点（平成30年度第3回介護保険運営協議会で決定）

- 事業評価を開始してから、各地域包括支援センターは様々な創意工夫を講じながら事業を展開し、また、それらの好事例を市町村、地域包括支援センター間で共有することにより、全体的に質の向上が図られている。
- このため、平成30年度の事業評価では下記の変更をおこなう。
  - 1) 行政評価の個別評価基準について、地域包括支援センターで既に十分取り組みがなされている項目は評価基準を高く設定した。
  - 2) 評価項目において、更なる発展的な取り組みや先進的な取り組みを特記事項として記載できる項目を新設し、可視化することで業務の改善や強みの強化を図れるよう変更した。

### 1) 個別評価基準の主な変更点

1. 組織／運営体制（2か所）
2. 総合相談支援業務（2か所）
3. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（3か所）
4. 地域ケア会議関係業務（1か所）
5. 在宅医療・介護連携推進業務（2か所）
6. 認知症高齢者支援（1か所）
7. 介護予防ケアマネジメント業務・介護予防支援関係業務（2か所）

### 2) 特記事項の創設

各項目（10項目）における特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫などを記載する。本項目は、行政の評価対象とする。

# (参考) 松戸市地域包括支援センター事業評価の評価様式 (例)

評価項目	自己評価欄	行政評価	主な好事例・課題等	ヒアリング事項
⑦利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。	4	3.42	好事例： 夜間・休日の連絡先を明記した名刺を配布。積極的に夜間対応を行っている。	好事例について： 名刺の裏には緊急連絡先が記載されていた。
評価の根拠	ア. 夜間窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	3	好事例： 地域の祭りなどにアウトリーチブースを作り、相談を受けている。	
	イ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の夜間対応の件数(27年度1年間)【件数を記入】 ※17:00以降に対応した件数	4	件数	
	ウ. 土曜・休日窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	3	記述式	
	エ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の土曜・休日対応の件数(27年度1年間)【件数を記入】 ※内8:30-17:00に対応した件数	3		
	※内17:00以降に対応した件数	3		
	オ. 職員が、緊急時に連携できる医療機関・介護事業者等の各種施設の連絡先を携帯している/いない	4	選択式 (いる・いない)	
	カ. 地域包括支援センターのPRのために講じている具体的方策【自由記入】	4		
	キ. その他【任意・自由記入】	任意記載		

## 30年度地域包括支援センター事業評価結果

平成30年度センター事業評価における、15センターの平均点は、3.28点であった。点数の上下差は、0.56点であり、市内のどこに居住しても相談機能の質が同レベルで確保できているものと評価できる。

	明1	明2西	明2東	本庁	矢切	東部	常盤平	常盤平 団地	五香	六実	小金	小金原	新松戸	馬橋西	馬橋
基本 項目	3.32	3.38	3.09	3.15	3.19	3.12	3.25	3.24	3.31	3.20	3.52	3.54	3.03	3.17	3.15
特記 事項	0.01	0.08	0.01	0.01	0.03	0.02	0.02	0.05	0.04	0.09	0.04	0.06	0.01	0.04	0.04
合計	3.33	3.46	3.10	3.16	3.22	3.14	3.27	3.29	3.35	3.29	3.56	3.60	3.04	3.21	3.19
平均	3.28														

※ 基本項目は、1. 組織／運営体制～10. 松戸市指定事業までを指す。

# 30年度地域包括支援センター事業評価結果のまとめ (全体を通じた講評)

## ◎センター事業評価を通じた主な業務改善の例

### 1) 地域実態に応じたセンターの周知

常盤平団地内には外国人居住者（主に中国人）が多い、という地域実態をふまえ、中国人居住者にもセンターのことを理解していただけるよう、中国語版のセンターパンフレットを作成した。（例：常盤平団地包括）

### 2) 相談支援機能の強化・推進

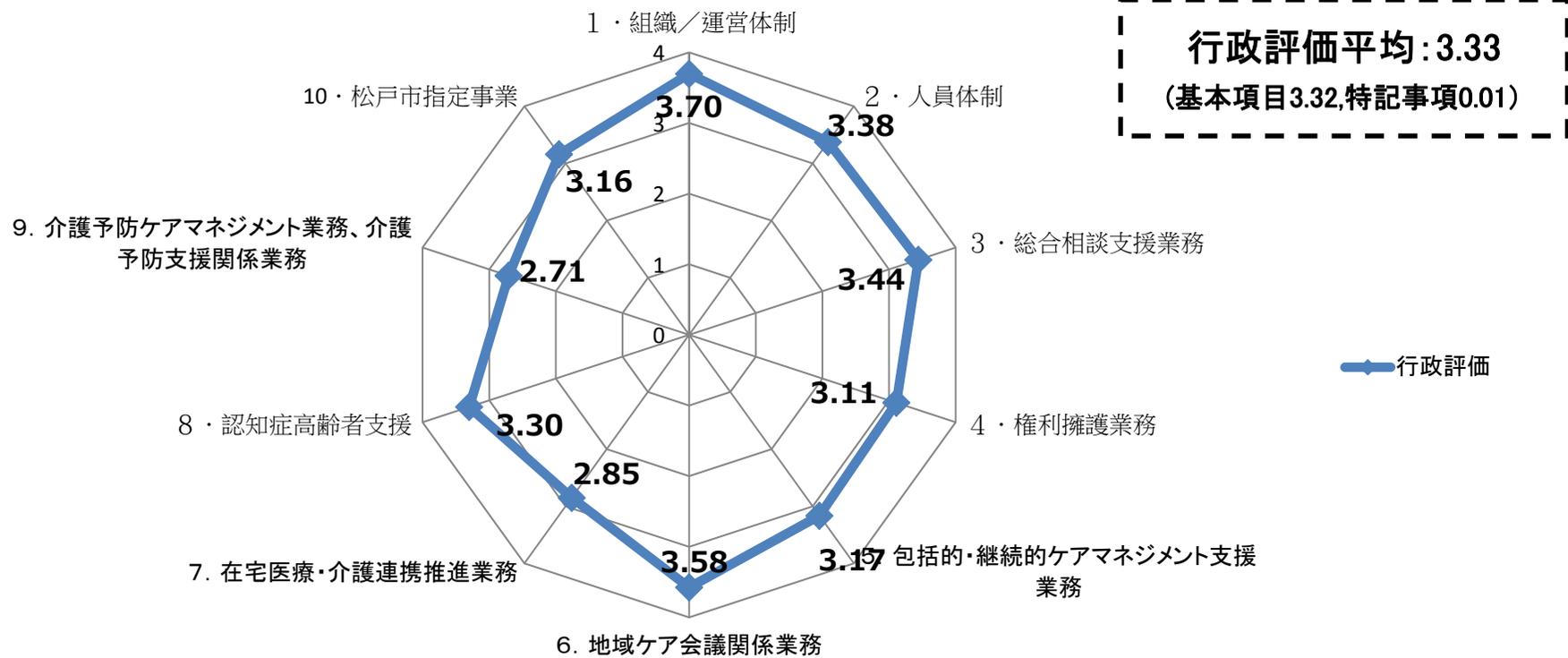
地域共生社会の推進を目指し、複合的な相談に対応できる支援ネットワークの構築を強化すべく、障害福祉分野をはじめ、他分野支援者ネットワークの交流会である、「世帯まるごと in常盤平」を開催した。（例：常盤平圏域の4包括合同）

### 3) 社会資源開発の推進

移動、買い物困難高齢者への外出支援となる社会資源が少ないという課題が生じた。そのため、特別養護老人ホームの送迎車を活用し、お試しで買い物支援を1回実施。来年度は、月1回予定。（例：明2西）

# 各地域包括支援センター行政評価結果の概要

# ①明第1地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



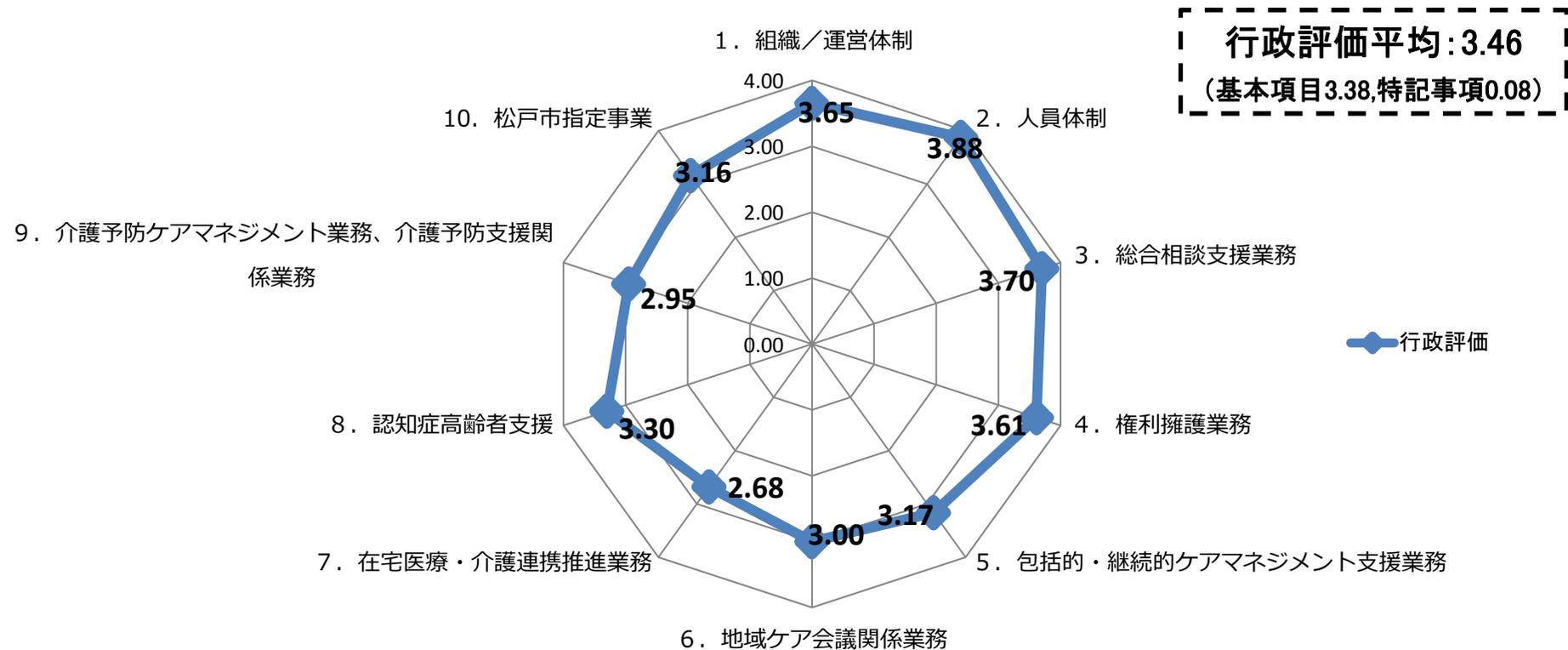
## 【講評】

(1) 総評：組織/運営体制、地域ケア会議関係業務、総合相談支援業務に強みがあるが、介護予防ケアマネジメント業務・介護予防支援関係業務、在宅医療介護連携推進業務の充実をさらに図っていくことが望まれる。

(2) 主な好事例：

- 副センター長を配置し、職員間のコミュニケーションを深め、業務の効率的な運営に向けて体制の見直しを行った。
- 地域ケア会議での意見から、民生委員とケアマネジャーが顔の見える関係が作れるよう、交流会を開催した。
- 会議開催までに3回以上、テーマや事例選定・情報収集・当日の進行等を確認し、欠席者からも意見聴取を行っている。

## ②明第2西地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



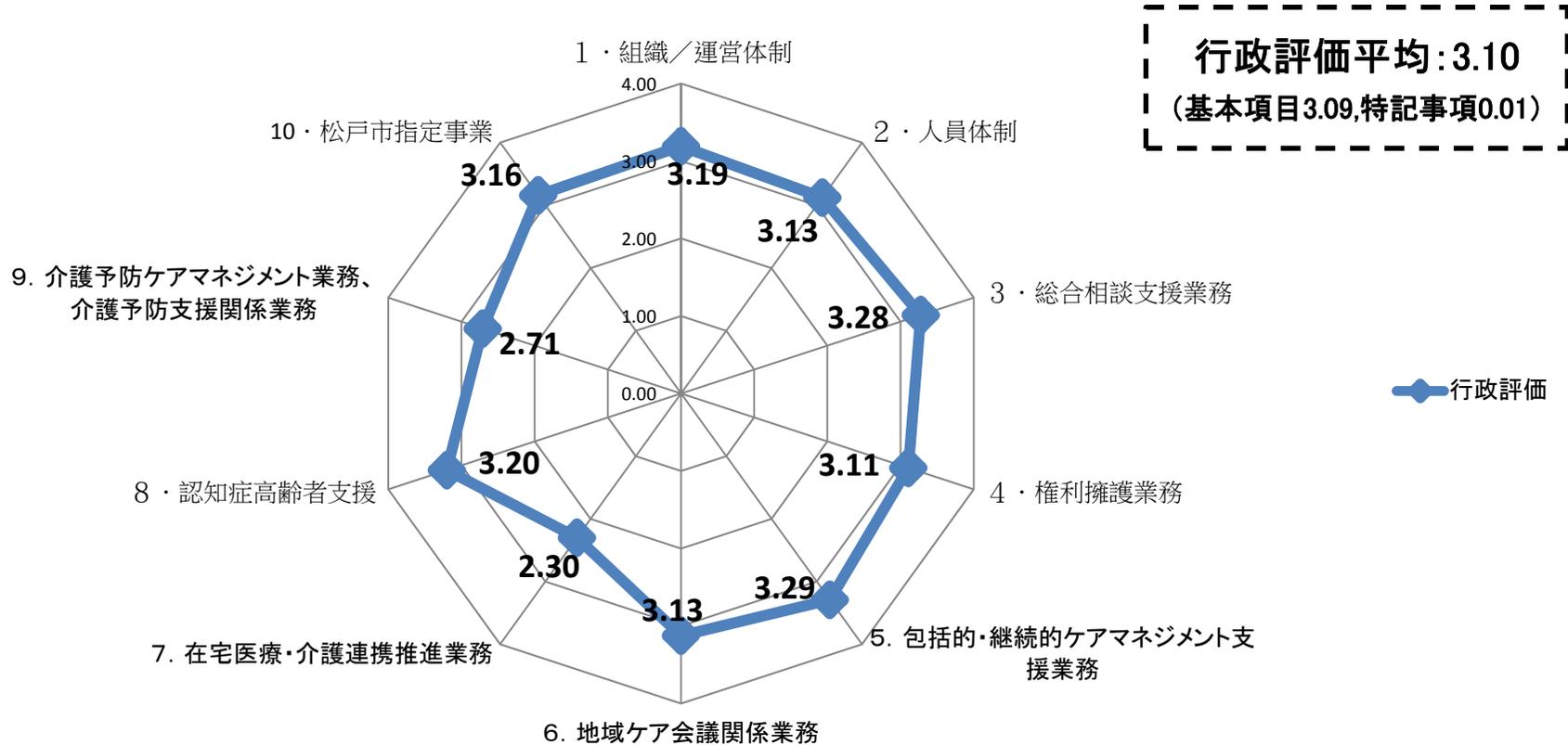
### 【講評】

(1) 総評：各分野全般にわたってバランスよく業務が実施できている。組織運営体制、人員体制は整っており、特に総合相談支援業務、権利擁護業務について強みがある。一方、在宅医療・介護連携推進業務、介護予防ケアマネジメント業務・予防支援業務には強化が求められる。

(2) 主な好事例：

- 地域包括のPRチラシを作成し、配布やオレンジ協力員との地域の見守りパトロール（オレンジパトロール）の際にはほぼ全戸ポスティングを行っている。
- 意見交流会を通し、一人では花見に行けない認知症の高齢者や車椅子利用者を含め、オレンジ協力員と地域包括が共同で企画し、「お花見散歩」を実施。

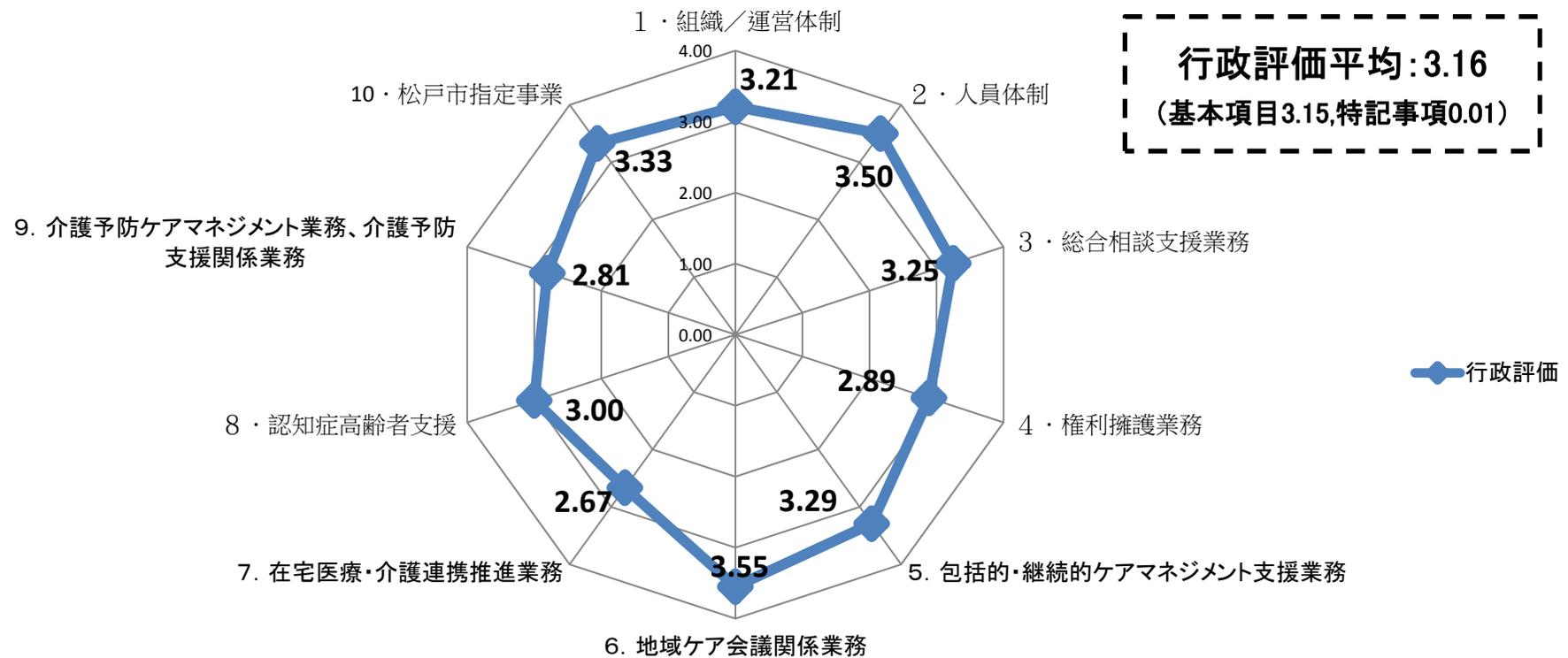
### ③明第2東地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



#### 【講評】

- (1) 総評：平成29年度に強化が求められた権利擁護業務（高齢者虐待対応）において改善が見られた。一方で、在宅医療・介護連携支援推進業務や介護予防ケアマネジメント・介護予防支援関係業務には改善が求められる。
- (2) 主な好事例：
  - 似顔絵を入れた地域包括のチラシを配布し、訪問時の不在票としても活用している。
  - 困難事例だけでなく、一般相談においてもメインとサブの2人体制で対応を行っている。

## ④本庁地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要

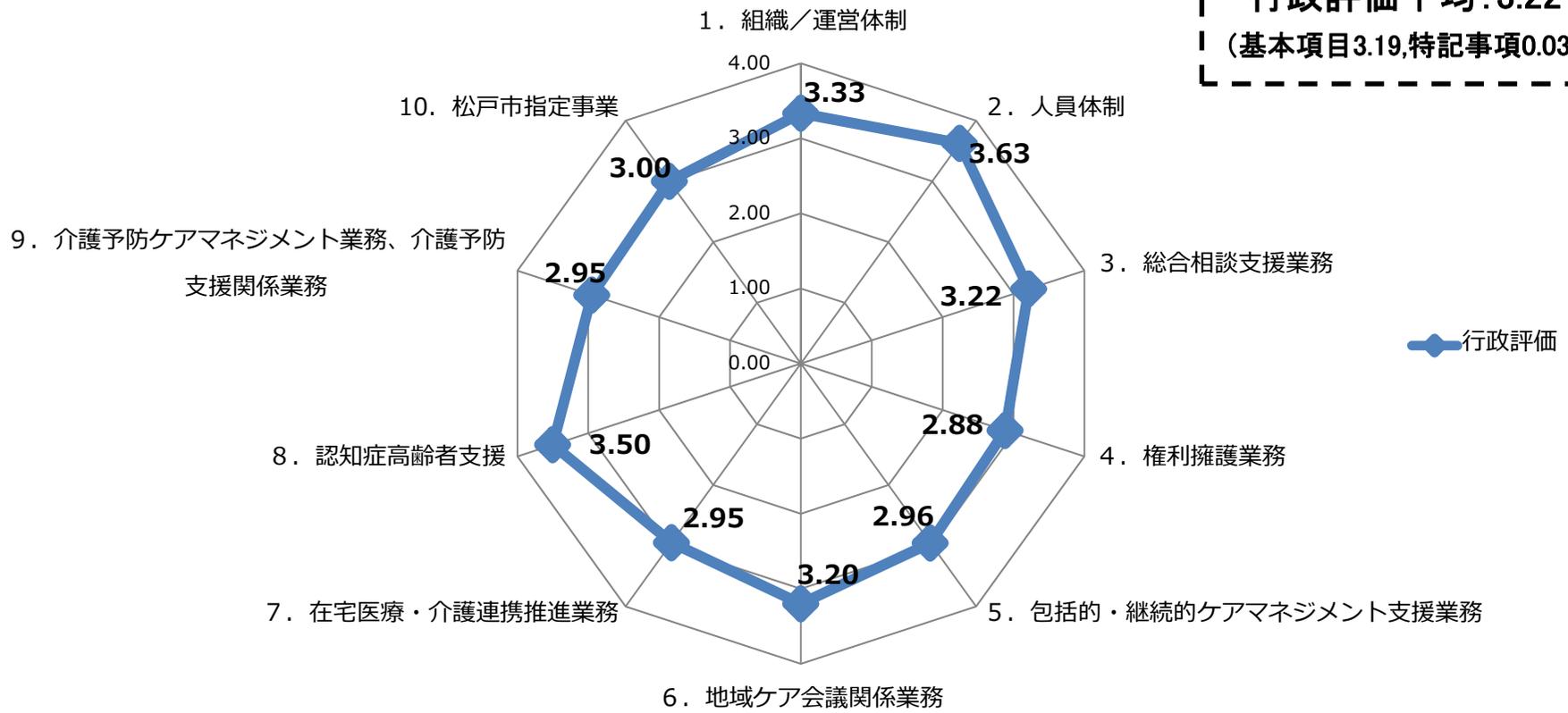


### 【講評】

- (1) 総評：地域ケア会議関係業務、包括的・ケアマネジメント支援業務に強みがある。一方で、在宅医療・介護連携推進業務では医療機関と緊密な連携を充実していくことが期待される。
- (2) 主な好事例：
  - 個別ケア会議や日常業務の中で把握した地域の特性等を数値化、グラフ化し、地域特性の理解を図っている。
  - 居宅介護支援事業所の委託件数が確認できる表を作成し職員間で共有。委託が偏らないよう配慮し、公正中立を保っている。

## ⑤ 矢切地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要

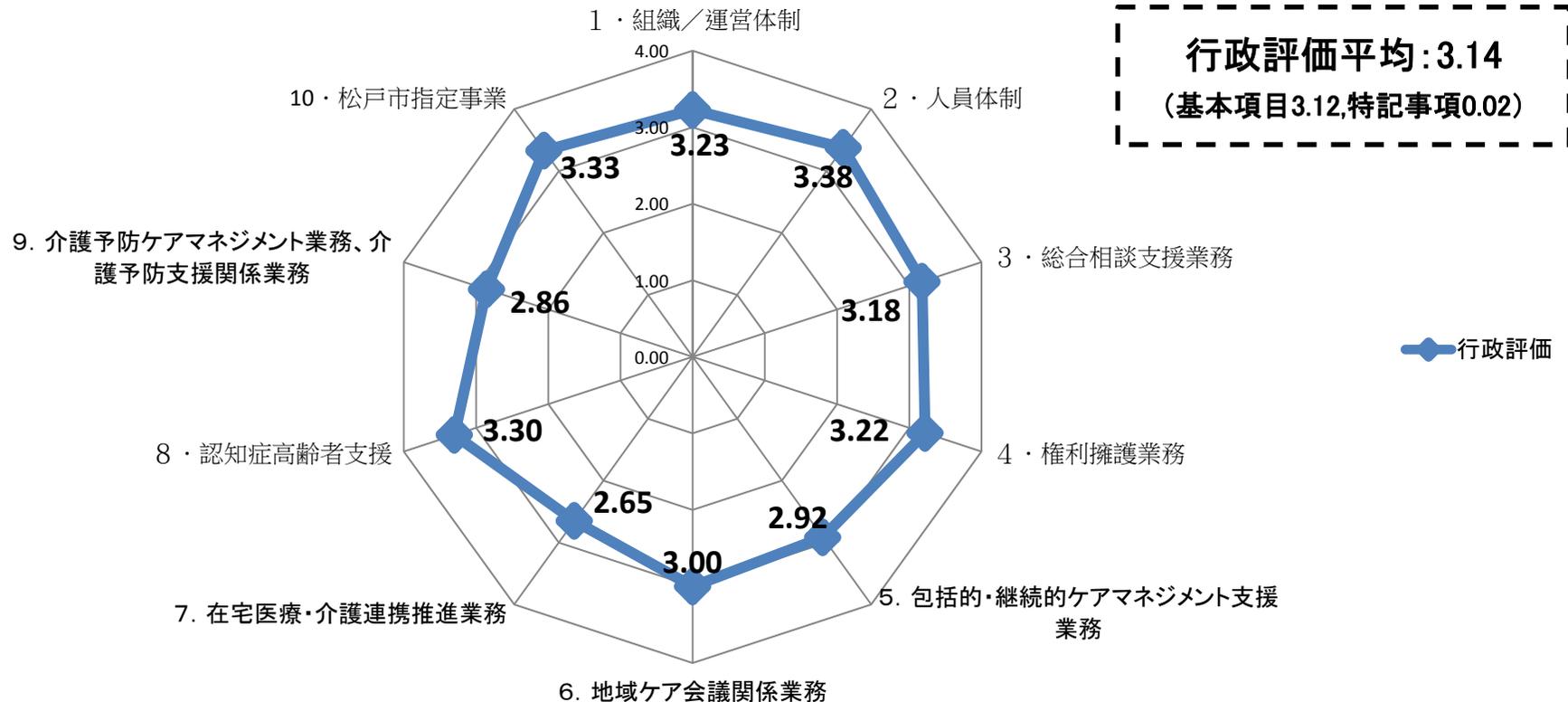
行政評価平均: 3.22  
 (基本項目3.19, 特記事項0.03)



### 【講評】

- (1) 総評：昨年に引き続き、総合相談事業と認知症高齢者支援の取組が充実している。権利擁護業務は、成年後見制度や日常生活自立支援事業の啓発と活用が期待される。
- (2) 主な好事例：
  - 矢切こどもまつりでは、高齢者体験やノルディックウォーキング体験等、体験しながら理解できるよう、地域包括の周知を行っている。
  - 認知症ケアパス普及啓発のため、「もしバナゲーム」を取り入れ、楽しみながら学ぶ機会を提供している。

## ⑥ 東部地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



### 【講評】

(1) 総評：人員体制、松戸市指定事業、認知症高齢者支援に強みがあるが、在宅医療介護連携推進業務、介護予防ケアマネジメント業務・介護予防支援関係業務は更なる充実が期待される

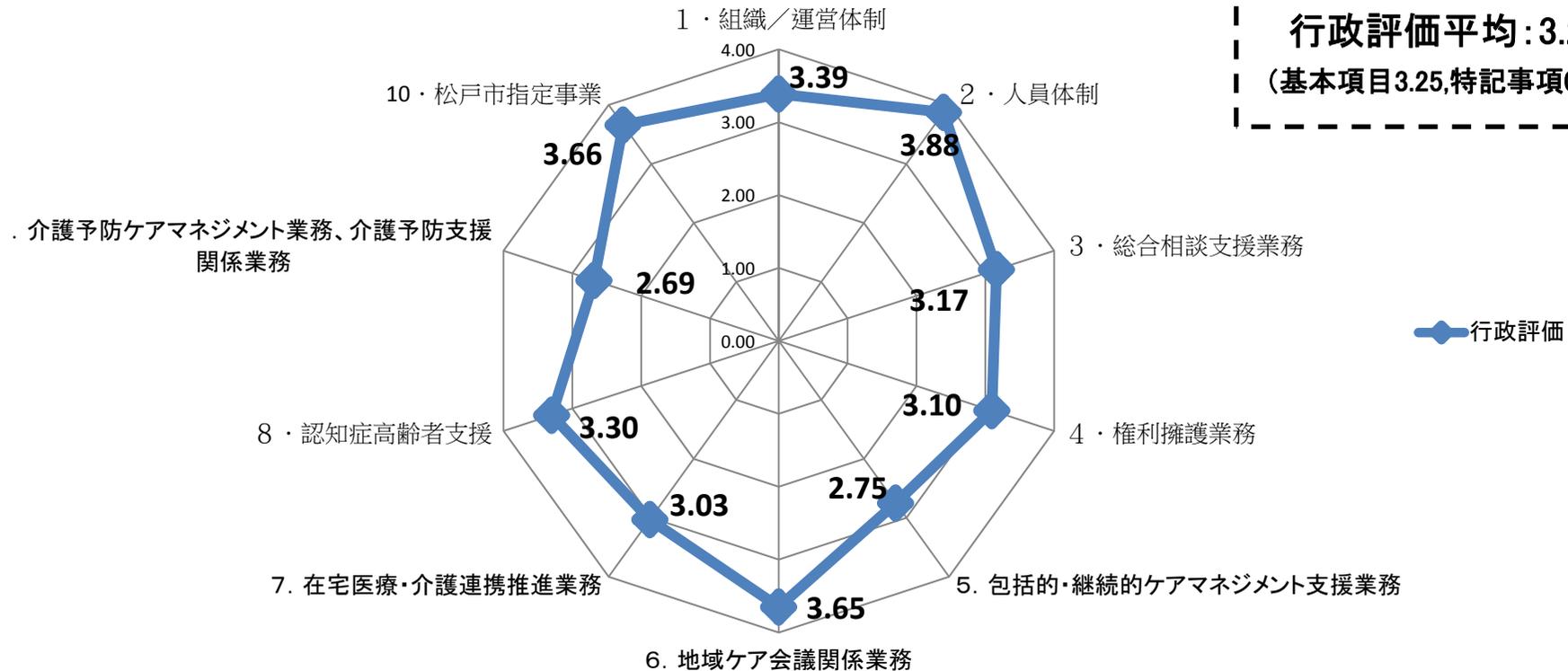
(2) 主な好事例：

- 相談内容によっては専用の相談室（個室）にて対応をしている。
- 事業所にはケース依頼後も密に連絡をとり、ケアマネの業務を侵さないように配慮しながら適宜助言を行い（ケアプランの立て方や社会資源の情報提供）、ケアマネジメントできるように支援を行った。
- ケアマネ交流会で民生委員に参加をしてもらい、その役割や活動について理解を深めてもらい、連携しやすい関係作りを行った。

## ⑦常盤平地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要

行政評価平均:3.27

(基本項目3.25,特記事項0.02)



### 【講評】

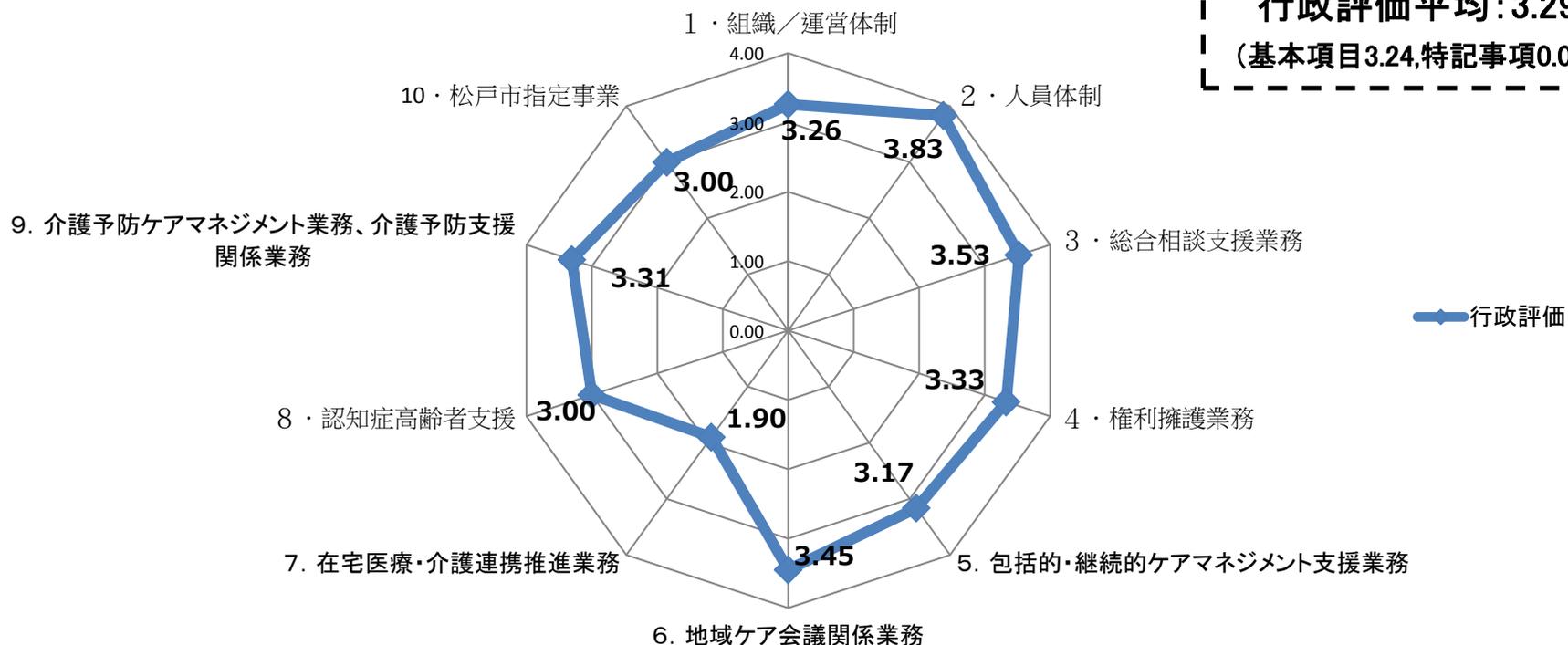
(1) 総評：人員体制において強みがある一方、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務や介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務においては、更なる充実が求められる。

(2) 主な好事例：

- 母体法人とともに、担当地域において徘徊模擬訓練をおこなった。認知症ケアを街づくり単位で考えた企画であり、普及啓発を進める上においても大変意義深い。
- 地域ケア会議におけるニュースレターは平成30年度も継続実施されている。会議の成果と地域課題の双方が見える化されている。

## ⑧常盤平団地地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要

行政評価平均:3.29  
(基本項目3.24,特記事項0.05)



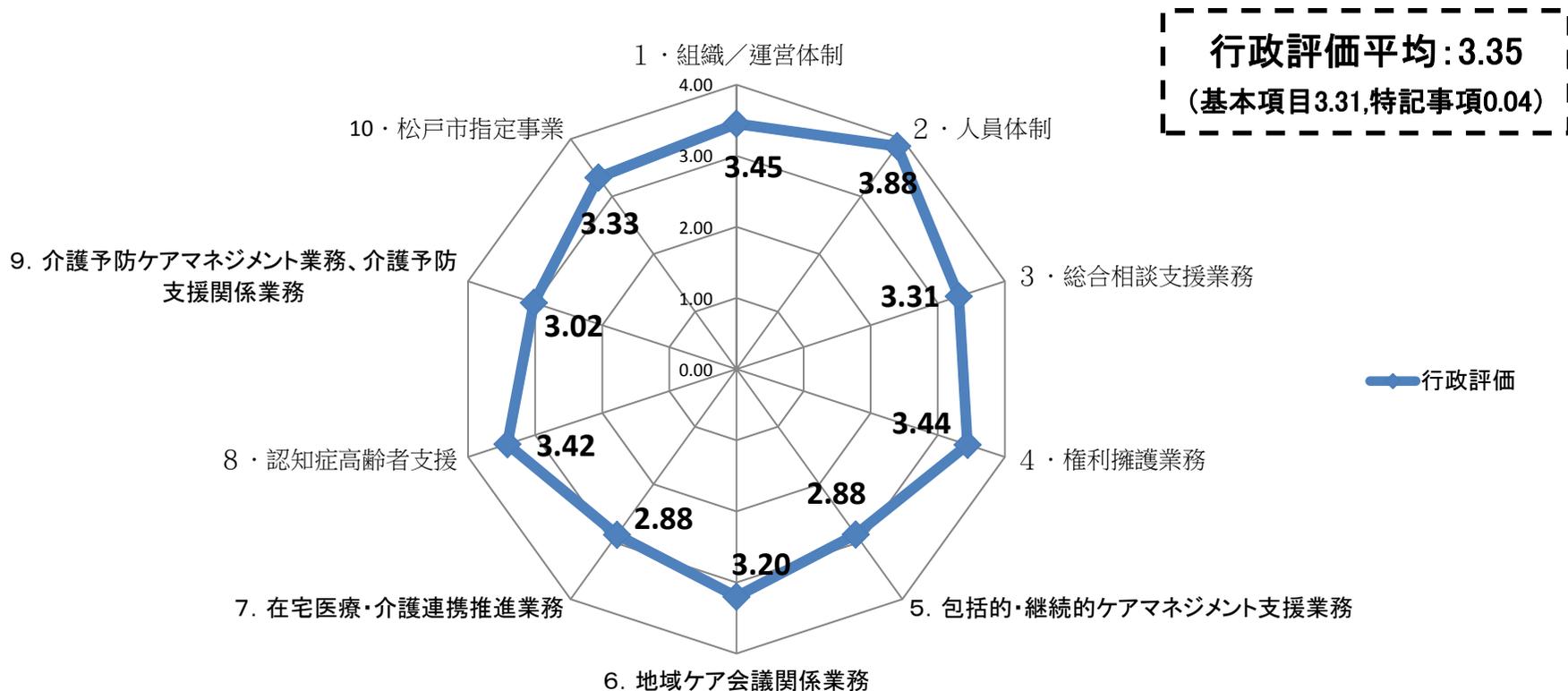
### 【講評】

(1) 総評：在宅医療・介護連携推進業務は今後の努力を要するも、その他の項目はバランスよく高得点を獲得している。昨年度の課題であった、地域ケア会議関係等業務については大きな改善が見られた。

(2) 主な好事例：

- 外国人居住者が多い、という常盤平団地の地域特性に注目し、松戸市内15地域包括の中で唯一、外国語版の地域包括パンフレットを整備した。
- 地域の中の商店と連携し、商店の喫茶スペースを活用した講演会を企画。地元密着の事業を展開している。
- UR独自のサービスがあるが、独自ゆえ、団地住人やケアマネジャー等への周知が薄い。それを地域包括職員が積極的に情報発信し、代行申請支援もおこなっている。団地生活の利便性向上に資するところは大きい。

## ⑨五香松飛台地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



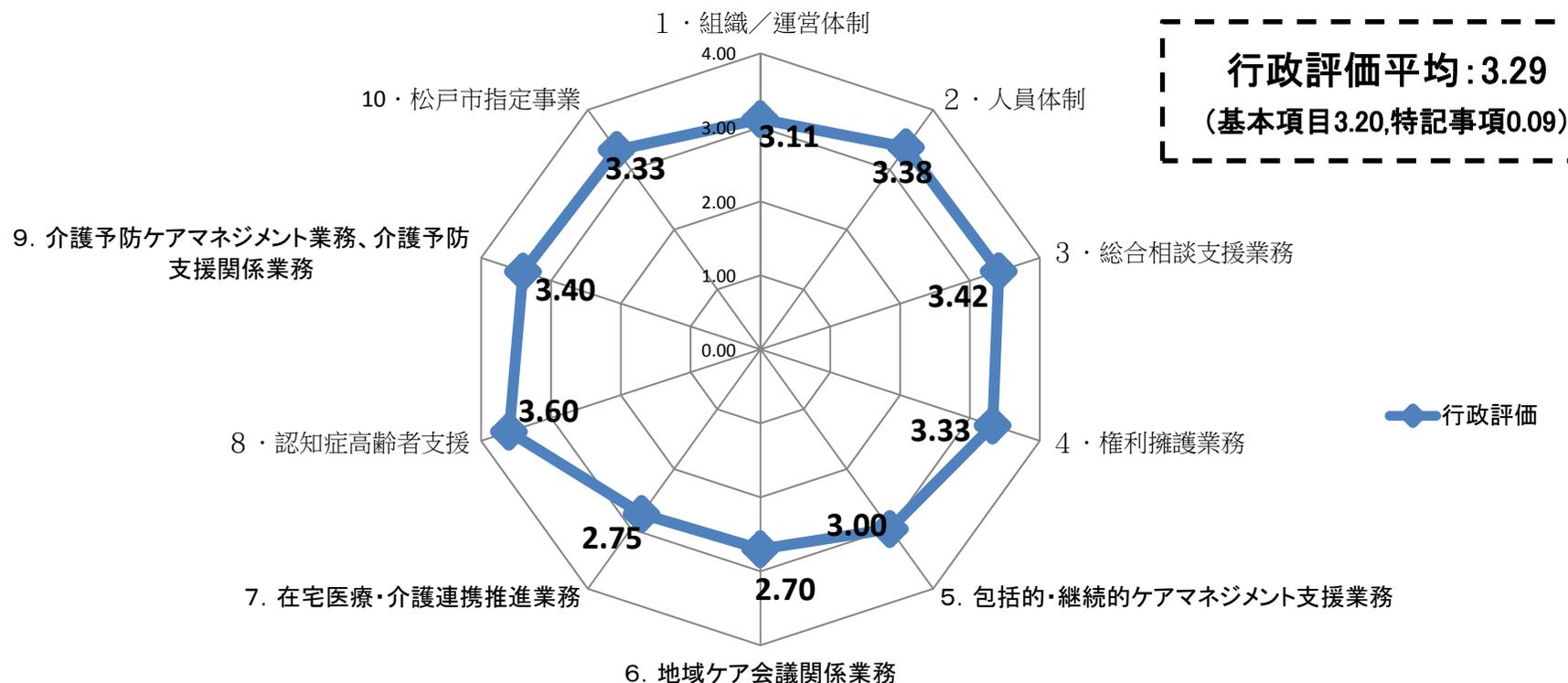
### 【講評】

(1) 総評：全体的にバランスよく業務が行えている。特に権利擁護、地域ケア会議、認知症高齢者支援は昨年重点項目として取り組んでおり、業務が改善している。一方、包括的・継続的ケアマネジメントや在宅医療・介護連携推進業務について強化が求められる。

### (2) 主な好事例：

- 認知症の方や小学生などの地域の見守りパトウォークをオレンジ協力員や高支連等と企画し、毎週、実施している。
- 地域ケア会議で話し合った内容や意見については写真等を掲載したニュースレターにしている。それを参加者や皆護ネットワークに後日配布して、成果を見える様に報告している。

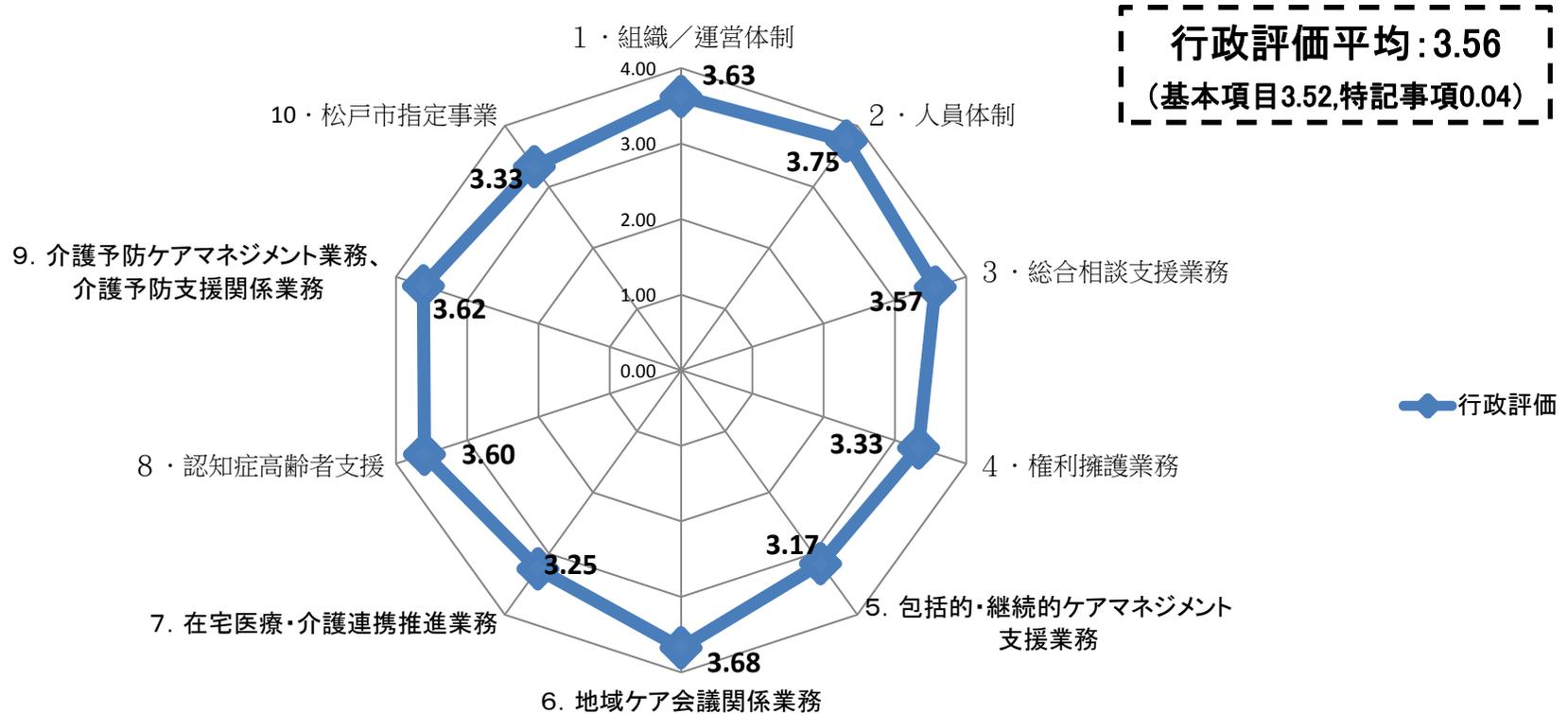
## ⑩六実六高台地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



### 【講評】

- (1) 総評：認知症高齢者支援、介護予防ケアマネジメント・介護予防支援について強みがある。一方で地域ケア会議、在宅医療・介護連携推進について強化が求められる。
- (2) 主な好事例：
  - DASCについて事業紹介の動画を地域包括独自で作成し、地域での啓発活動や予防教室の際に使用している。動画には地域のオレンジ協力員が出演し、実際にDASCにも取り組んでもらった結果、実施件数が増加した。
  - 市境にある為、近隣市からの相談があることもあり、近隣市の情報もファイリングし、必要な際は相談者に情報提供している。
  - 経験の浅いケアマネに依頼する際は、同行訪問やケアプランについても確認し、パソコン操作をはじめケース対応まで地域包括が直接支援している。

## ⑪小金地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



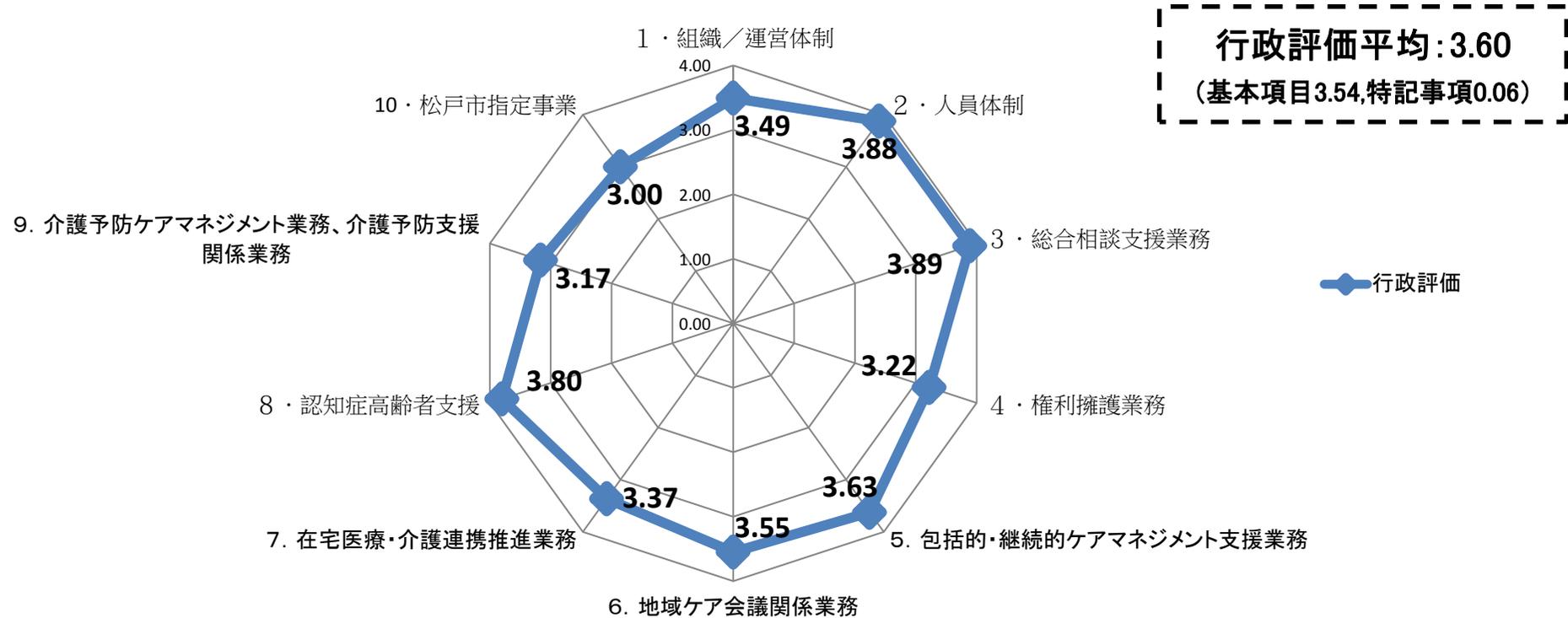
### 【講評】

(1) 総評：各分野全般にわたってバランスよく業務が実施できている。人員体制、組織・運営体制が整っており、特に介護予防ケアマネジメント業務、地域ケア会議関係業務、認知症高齢者支援に強みがある。

(2) 主な好事例：

- 認知症高齢者早期発見ネットワークの構築をする為に、認知症を予防できるまち・まつどプロジェクトと認知症カフェのチラシを圏域内全ての医療機関（病院、診療所、歯科、薬局等）に持参し、直接協力を依頼した。
- オレンジ協力員定例会の中で認知症の方の個別支援について話し合い、認知症高齢者支援マニュアルの作成と自宅と認知症カフェ間の道順確認、ロールプレイ等の準備を重ね、顔合わせを事前に行った上で、実際に認知症の高齢者の方を認知症カフェへお連れした。

## ⑫小金原地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



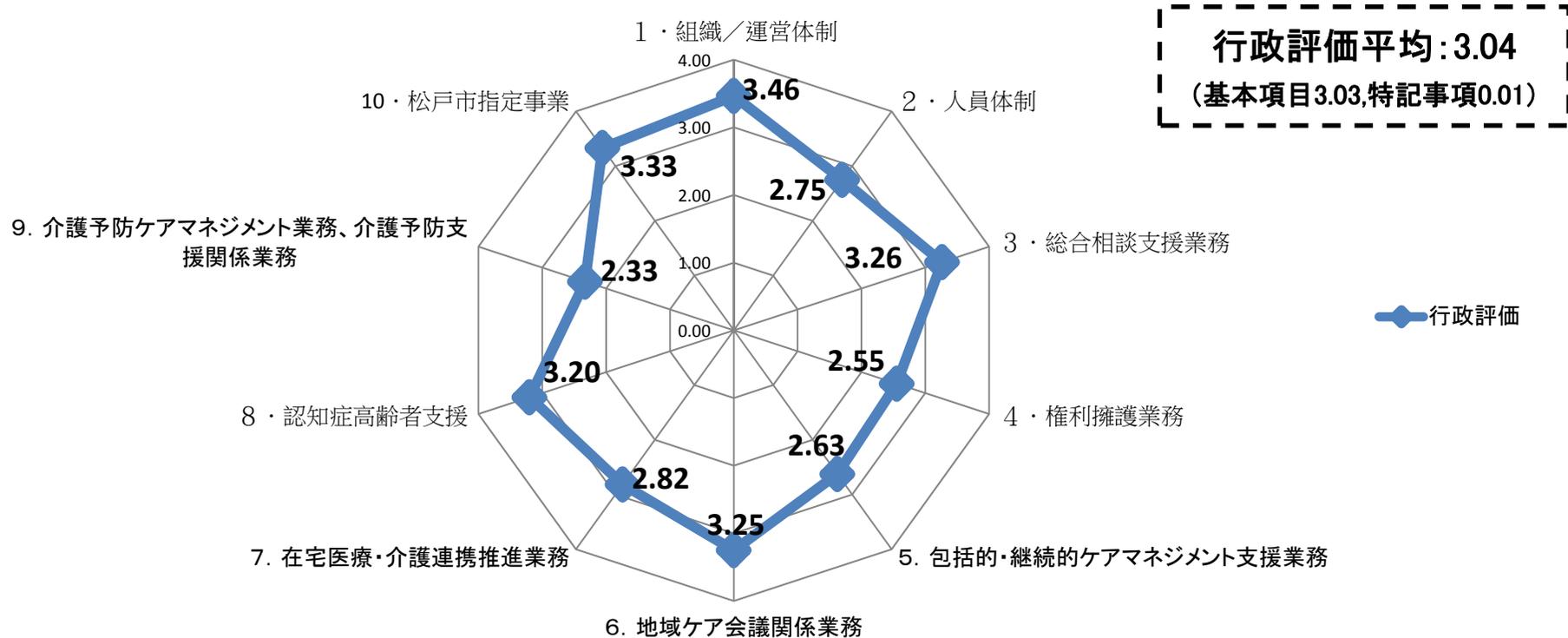
### 【講評】

(1) 総評：各分野全般にわたってバランスよく業務が実施できている。特に、人員体制、総合相談支援業務、包括的・継続的ケアマネジメント、認知症高齢者支援業務においては強みがある。

(2) 主な好事例：

- 平成30年度に立ち上げた包括主催のカフェは毎週開催しているため地域の中で定着し、当事者や介護者など気軽に集える場となっている。オレンジ協力員が運営にかかわり、新しいメンバーを誘い出し、行き帰りに同行するなど地域住民ならではの役割を果たしている。
- 平成29年度の地域ケア推進会議において、住民の異変に早期に気づき対応するためのシステム作りのために、「小金原地区みまもりあいマップ」として作り上げ、平成30年度には、具体的な活動として、「みまもりあい」ステッカー・カードの作成を行った。

## ⑬新松戸地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



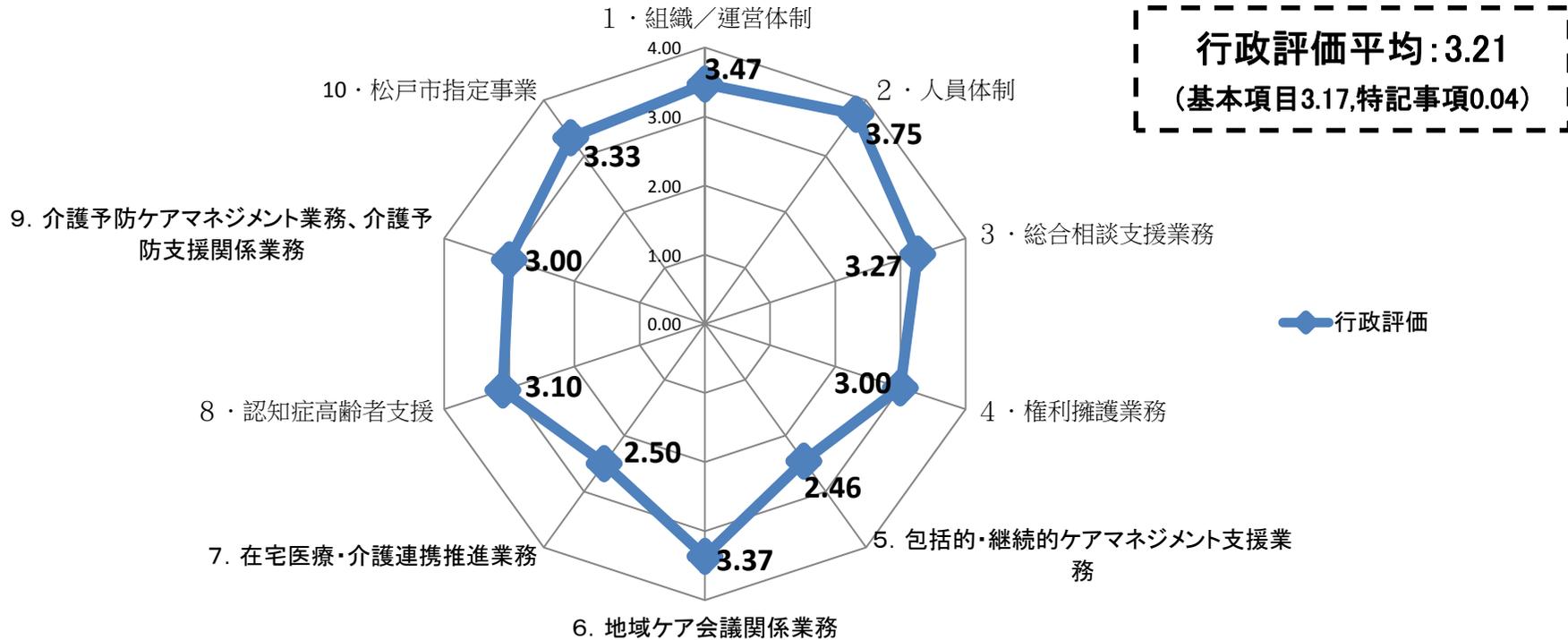
### 【講評】

(1) 総評：組織・運営体制が整っており、松戸市指定事業に力を入れて取り組んでいる。一方で介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務及び権利擁護業務については改善が求められる。

(2) 主な好事例：

- 病院と共同企画で医療と介護を考える会を実施。近隣の訪問看護事業所や相談員、ケアマネと病棟看護師、医師と研修会を実施した。
- 地域包括で開催している体操教室に認知症の方も参加しており、教室内でうまく交流や体操ができるように、オレンジ協力員の方が、協力をしてきている。体操教室前にも、他のメンバーとご本人宅で活動内容の振り返りを行い、説明をしてきている。

## ⑭馬橋西地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



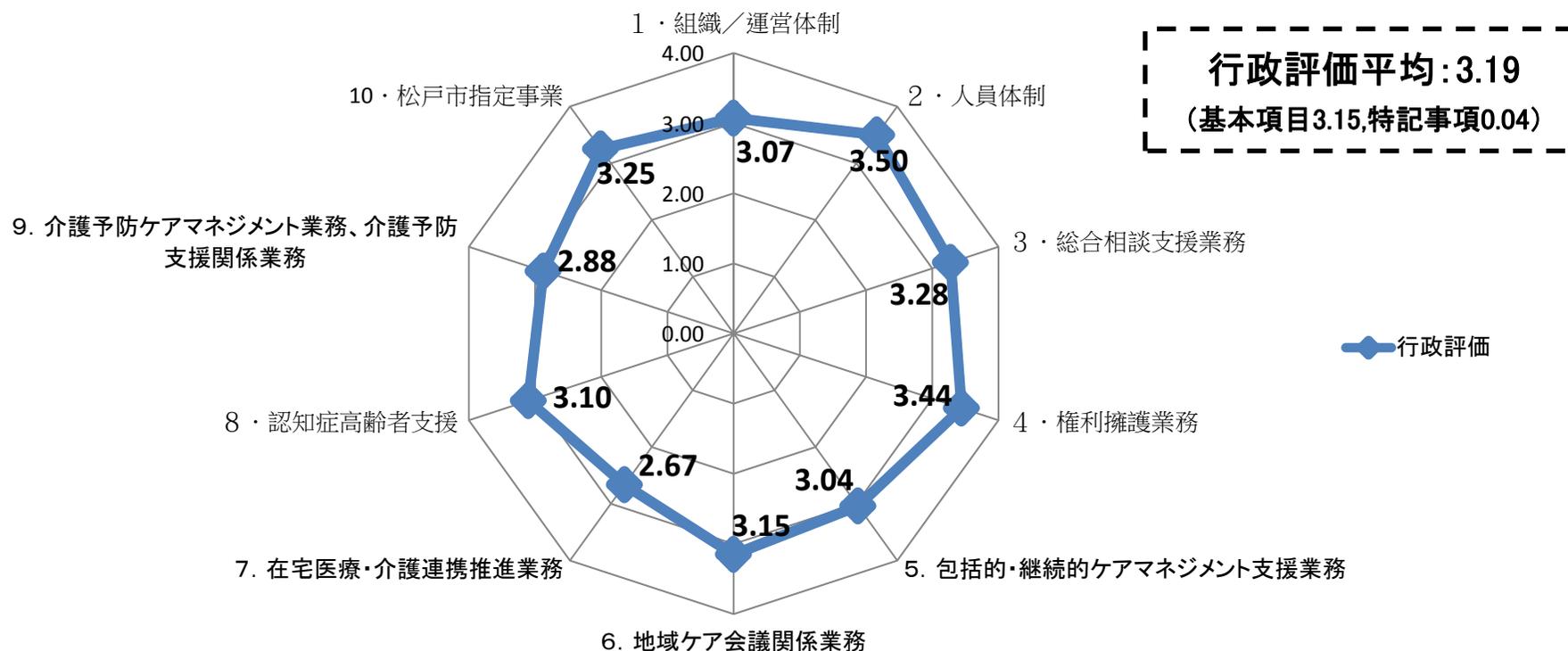
### 【講評】

(1) 総評：地域ケア会議関係業務に強みがある一方で、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務や在宅医療・介護連携推進業務については改善が求められる。

(2) 主な好事例：

- 地域づくりフォーラムを通じ新たに社会資源マップを作成した。今回作成した社会資源マップには高齢者だけでなく、子ども、障がい分野、公衆電話やAED、避難場所等も入れた。
- 地域包括独自のチラシを作成、場所が分かりにくい事もある為、裏面には地図を印刷している。
- シルバー消費者教室の開催に合わせて、地域包括独自で消費者被害のポスターや講座についての説明を封入したティッシュを作成し、配布した。参加者が数名だったところから配布したことで集客数が上がった。

## ⑮馬橋地域包括支援センター 30年度行政評価結果の概要



### 【講評】

(1) 総評：人員体制において強みがある一方、在宅医療・介護連携推進業務や介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務においては更なる充実、強化が望まれる。

(2) 主な好事例：

- 毎月一回、第一月曜日に個人情報保護マニュアルの読み合わせを職員全員でおこない、個人情報の取扱いに関する意識を高めている。
- 地域包括の入り口の看板には、親しみやすく目立つようにロバ隊長を飾って、「介護や困りごとの相談に応じます。お気軽にお立ち寄りください」と読みやすい書体で設置している。
- FacebookなどのSNSの更新回数を増やし、また、簡単に見て頂けるように名刺やチラシにURLの情報を入れている。

## 事業評価結果 主な特記事項の例

	項目	地域包括支援センターの取組状況
1	組織／運営体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団地に居住している外国人（特に中国人）が多いため、地域包括のパンフレットの中国語バージョンをURの担当者と作成し、周知啓発に努めた。（常盤平団地）</li> </ul>
2	人員体制	なし。
3	総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関係構築のため相談員全員で地区町会長19名にあいさつ回りしながら、マップ作りのための町会活動の資源調べをおこなった。（矢切）</li> <li>・障害分野、子ども分野、児童子育て、教育研究所、法律家、高齢者等の様々な分野の専門職との連携を図るため、「世帯まるごとin常盤平（シンポジウム）」を開催した。（常盤平）（常盤平団地）（五香）（六実）</li> <li>・包括が市境であるため、近隣市の情報もファイリングし、必要な際は相談者に情報提供している。（六実）</li> </ul>
4	権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー消費者教室の開催にあわせて、地域包括独自で消費者被害のポスターや講座についての説明を封入したティッシュを作成し、配布した。参加者が数名だったところから配布したことで集客数が上がった。（馬橋西）</li> <li>・「セルフネグレクト」に着目した地域包括独自の虐待に関するポスターを作成した。（馬橋西）</li> </ul>
5	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験の浅いケアマネに依頼する際は、同行訪問やケアプランについても確認し、パソコン操作をはじめケース対応まで地域包括が直接支援している。（六実）</li> </ul>
6	地域ケア会議関係業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で買物に行けない独居高齢者が増加しているという地域課題解決のため、住民ボランティアと介護施設所有の送迎車を活用した「買物レクリエーション」を試験的に行い、今後発展させる予定。（明2西）</li> <li>・先進的な自主防災の取り組みを行っている小金原自治会責任者を講師として招聘し、防災をテーマに講演をおこなった。（明2西）</li> <li>・今年度は母体法人と共に担当地域で徘徊模擬訓練を行った。（常盤平）</li> <li>・「小金原地区みまもりあいマップ」を作り上げ全戸配布をし、みまもりあいの具体的な活動として、「みまもりあい」ステッカー・カードの作成を行った。（小金原）</li> </ul>
7	在宅医療介護連携推進業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当地区内にある市内大学とその附属病院との連携が実現し、訪問歯科医療チームとの協働、認知症予防教室や地域ケア会議での協力を得ることができた。（明2西）</li> <li>・週1回程度、地域サポート医は地域包括に来所され、受診時に気になる患者や地域包括を案内した患者の情報を共有し、助言を受けながら支援をしている。（六実）</li> </ul>

	項目	地域包括支援センターの取組状況
8	認知症 高齢者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オレンジパトウォークは2年目を迎え、平成31年3月にはイギリスBBC放送局の取材を受け、オレンジ協力員の活動意欲がさらに高まった。（明2西）</li> <li>・ DASCについて、事業紹介の動画を地域包括独自で作成し、地域での啓発活動や予防教室の際に使用している。動画には地域のオレンジ協力員が出演し、実際にDASCにも取り組んでもらっている。DASCの事業紹介動画で興味を持ってもらえることが多く、DASCの件数増加につながった。（六実）</li> <li>・ 認知症予防教室等の催し物を定期的にブログで周知し、オレンジ協力員の活動を紹介することで参加者が増え、オレンジ協力員自身の活動意欲向上にも繋がった。（六実）</li> <li>・ 平成30年度に認知症カフェを立ち上げ、認知症カフェへの参加が定着するようにオレンジ協力員が閉じこもりがちな当事者を送り迎えしたことで、現在は毎回参加できるようになった。（小金原）</li> </ul>
9	介護予防ケアマネジ メント業務 介護予防支援関 係業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月1回、事業所内でケアプラン研修会を開催し、自立支援型ケアマネジメントのスキルアップに取り組んでいる。（明2西）</li> <li>・ 民生委員等との交流会のグループワークでは、手紙のやりとりを通じ、其々の役割でできることなどについて話し合い、お互いの役割を確認し連携を強化した。（小金原）</li> </ul>
10	松戸指定事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区に住む行政書士、商店と連携し、介護予防、権利擁護に関する定期的な講演会を開催した。会場は商店の喫茶スペースを利用し、住民の利便性を考慮した。（常盤平団地）</li> <li>・ 個人ファイルを作成し緊急連絡先、既往歴、かかりつけ医、体操の注意点、自主トレのメニュー、自主トレ実施表を差し込み参加者に配布した。（小金原）</li> <li>・ 介護予防教室最終日には参加者に地域包括で作った賞状（健康スマイル賞）を渡し、達成感を味わっていただいた。（馬橋）</li> </ul>
11	その他 (職員が働き やすい職場環 境を整えてい るか等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラジオ体操を毎朝ミーティング後に行い、健康管理の意識に繋がるようにしている。（明2東）</li> <li>・ 有休が時間単位で取得することが可能であり、リフレッシュ休暇を取得することもでき働きやすい環境を整えている。（六実）</li> <li>・ 時間外勤務については、事前に決まっている会議や研修については遅番とし、勤務時間の調整をしている。（小金原）</li> <li>・ 半日や1日単位の勤務スタイルでなく、必要に応じて、「時間有休」を活用し、勤務状況や子供関係の用事に合わせて、働く環境を整備している。（新松戸）</li> <li>・ 休日や夜の研修、会議に出る際には出勤時間を遅らせる、又は次の日に時間外分を休む等の調整を行っている。（馬橋西）</li> <li>・ 始業前に「なのはな体操」を行い、職員の健康維持に努めている。また、独立した休憩室を設け、仕事との切り替えができるようにしている。（馬橋）</li> </ul> <p>※この項目は、評価対象外とする。</p>